

## 仙石貢博士追悼晩餐會

仙石博士逝去後第百日の二月六日、土木學會と帝國鐵道協會有志連合發起の下に、丸ノ内鐵道協會大食堂に於て故博士追悼會が催された。當夜は仙石家の御遺族を招待し、參加會員百八十名に及び、鐵道省方面及び故博士の知己友人諸氏所謂技術界の大先輩が多數であつた。我が工事畫報社に於ても當日の此舉を賛し大先輩の人格事業を追憶せる仙石貢特輯號を參會者一同に贈呈した。

當夜は古川阪次郎博士發起人を代表して先づ挨拶を述べ、鐵道に於ける仙石博士の氣骨凌々たりし態度を賞揚された

次いで來賓としての仙石次雄氏謝辭を述べ次に古川博士の指名にて次の諸氏の懷舊談及び追憶談があつた。

鈴木鑒次郎氏、井上秀二氏、野村龍太郎氏、島安次郎氏、井上敬次郎氏、鳥越金之助氏、菅原恒覽氏、渡邊嘉一氏

### 技術家の國際感情

仙石博士追悼會に於て、井上秀二氏は例の流暢明徹の語調で、仙石博士がファンドールン氏の一枚の寫真を得るの苦心と、それを得た時の喜びと共に依り、直に銅像を建設するの果斷とを述べ、國際的美談の一として後世に傳ふべきものであるを感銘させられた。

恰も工事畫報が創刊號に際し、當時米國商務卿たりしフウバー氏に、技術家としての氏の世界人類に對する功献と努力とを感謝すると同時に我が工事畫報の抱負の一端を述べて敬意を表したのであるがフウバー卿は之に對し町重なる返信を贈り來り我社を激勵されたのである。此の一小些事が現在大統領としてのフウバー卿に如何に日本的好感を保持する資料となつてゐるか知れないのである。

總て外交上の表向の言辭などよりも、平常不用意の間に發せらるゝ國民の言に彼等は眞

實を知るのである。

仙石博士が私財を以て建設したファンドールン氏の銅像の如きは、單にオランダ國民に對する親善に益するのみではない、世界に對し日本人親善の種を蒔たものと云ふ可である

### 仙石博士と濱口雄幸氏

井上敬二郎氏は町田忠次氏に聞た話であるから間違はあるまいと思ふとて、感激に満ちた語調で仙石博士晩年の逸話を述べられた。

それは仙石博士が病氣の故を以て満鐵を辭するや、満鐵からは總裁の勞に酬ゆるべく金壹封を贈つて來た、仙石博士は其を家人にも見せず、幾ら入つてか披いても見ず其封の儘を濱口雄幸氏に與へたのである。

仙石博士も其頃は本邸を賣渡す程であるから私財は樂な方ではない、濱口氏も總理大臣として狙撃されて以來の入院治療で大に物入りのしてゐる時である。受けた濱口氏にも涙が光つた事であらうが、語る井上氏も此の話を聞いて泣いたとの事であつた。

### 市井に舊友を救ふ仙石氏

菅原恒覽氏が九州鐵道を止めて浪人してゐる時、世間が不況氣で中々就職が出來ない、止を得ず九州の伊萬里から陶器を持つて来て、銀座通りに間口三間の店を家賃三十圓で借受け、瀬戸物店を出した。

大學出の技術家が瀬戸物店を始めたのであるから餘程變つた事であつた、暫くしてから仙石貢氏は突然に銀座の菅原氏の店を訪ねて菅原氏の材を惜み、再び鐵道技術界に出る事を勧め、大變に親切に盡力して遂に市井の一工學士を再び其専間に復活しめたのであるとて、今は鐵業工業株式會社の理事長として、且つ業界の德望ある先輩たる菅原恒覽氏の感慨深い追憶談。

故仙石博士追悼會出席者席名

(順 八 口 什)

西丹丹橋濱原原初服石池池今今今稻泉岩生伊伊井井井井井井井  
野羽羽本谷部田田里川泉井垣口藤藤上上上上田  
惠信田熊藤宇兵光喜敬角篤晃清母次  
之鑄武次兵勝勝嘉情二健好太勘秀四次五太  
助彥朝郎彪碧吉君君君君君君君君君君君君君君君君君君  
君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君君